令和６年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和６年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価 （２月 27 日実施）	総合評価（３月 13 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・「自分の可能性をきりひらく子を育てる」の視点から、個別教育計画を中心に据えた各部門課程における個々の児童生徒の教育活動の充実を図る。	①個別教育計画（新書式）に基づいた授業づくり・授業改善により、個に応じた学習の充実を図る。 ②専門性を生かした教材の工夫を模索して、児童生徒の発達段階と課題に即した効果的な指導を実践する。	①個別教育計画の手引きの改善を図り、目標と手立てを明確にした有効に活用できる個別教育計画を作成し計画的に指導を行う。 ②ＩＣＴ機器の利活用を全校で積極的に取り入れ、教育的ニーズに応じた教材の工夫をチームで模索する。	①目標を精選して手立てを明確にした活用できる個別教育計画を作成し、効果的な指導につなげられたか。 ②ＩＣＴ機器の利活用や教材の工夫により、個に応じた学習の充実と経験の拡大につながったか	①各部門で個別教育計画の目標と手立てについて、観点の共有のための工夫を図り、効果的な指導につながるよう取り組めた。 ②タブレット端末や電子黒板などのＩＣＴ機器が、個別・集団の様々な授業場面で効果的に活用できた。	①作成された個別教育計画の見立てが適切であるかの検証方法の工夫を探り、よりよい実践に繋げていく。 ②各教員の工夫により取組が進んだが、他のチームとの共有や、取組の般化には課題がある。	①新書式による個別教育計画の活用に務め、具体的手立てに活かされている。実際の授業で教員同士の一層の授業改善に活用できるとよい。 ②ＩＣＴ活用も含め、児童生徒個々のニーズに応じた様々な教材活用や工夫が図られていた。	①指導の充実に向けての個別教育計画の作成は一定の成果が見られた。目標の見立ての検証とよりよい手立ての検討は引き続き必要である。 ②年間を通して様々な場面で児童生徒の状況に応じたＩＣＴ機器の利活用が進んだが、学校全体の共有化には課題がある。	①作成された計画がよりよい実践につながるための仕組みを整える。 ②よい実践例の共有の工夫を図り、各授業でより効果的に幅広く活用できるよう組織的に方策を検討する。
2	（幼児・児童） 生徒指導・支援	・「自分の可能性をきりひらく子を育てる」の視点から、すこやかにしなやかにたくましく生きる力の育成を組織的に行う。	①児童生徒の多様な教育的ニーズに対し、アセスメントを有効に活用した指導の実践を行う。 ②専門職や各教員が持つスキルやノウハウを組織的に活かして、チームとして専門性の高い指導を行う。	①アセスメントを計画的に実施して、指導計画に反映させる流れを確立する。また有効に活用するための職員研修を行う。 ②効果的な人材活用ができるよう、実践の報告や校内データベースなどで情報共有の機会を増やす。	①アセスメントの結果を指導に有効に活用できる流れを確立できたか。また指導の目標設定や実践に活かせたか。 ②学校で組織的に人材活用が効果的に出来るよう取り組め、チームとして専門性を活かした指導が行えたか。	①各部門の状況に合わせて研修や情報共有を行い、計画的にアセスメントを実施して、指導実践に活かした。 ②部門ごとに工夫して教員の得意分野を共有し活用するよう取組んだ。また専門職や教育相談担当と連携した対応や研修を行った。	①より適切なアセスメントの模索と、アセスメントの実施と活用までの流れが定着されるとよい。 ②様々な教員の多様なスキルを学校全体でより活かしていけるとよい。	①アセスメントを実施し活用ができていた。 ②多様な職の職員を活用して効果的な児童生徒の指導を目指していることは評価できる。各教員の持ち味を生かした取り組み・指導が行われていると感じられた。	①アセスメントを基に授業改善に向けて検討を進めることができた。 ②専門職による研修やＩＣＴ活用の実践紹介、学部と支援連携係が連携した指導などのよい取組は随所にあった。様々なニーズとその対応実践の共有を拡げ・活用できるとよい。	①専門職を含めたケース検討等を通して、より丁寧にアセスメントを活用した指導実践につなげる。 ②サポートスタディグループ各チームや専門職と各部門との計画的な連携を強め、様々な専門性を活かした支援の充実を図る。
3	進路指導・支援	・「自分の可能性をきりひらく子を育てる」の視点から、小中高と一貫した進路指導・支援の充実と個別最適な進路学習を実現する。	①小中高それぞれの段階に応じた、一貫性のある進路指導・支援を行う。 ②スポーツや文化活動等への取組をとおして、地域を学びの場とした活動の充実を図り、余暇活動の選択肢を広げる。	③児童生徒それぞれの学びのニーズに応じた、自己選択を大切にした指導を行う。また進路に向けての保護者の意識を高めるよう学齢に応じた情報発信を行う。 ②スポーツや文化活動等に対する児童生徒の興味・関心が広がるように、新たな活動や発表の機会を検討・設定していく。	①自己選択の機会を意図的に作り、自信や意欲に繋がる指導ができたか。また保護者へのタイムリーな情報発信が積極的に行えたか。 ②様々なスポーツへの関わりや文化活動等を経験するために児童生徒が積極的に参加する学びの機会を設定、充実を図ることができたか。	①児童生徒の個々の目標に応じて、様々な学習場面で、自分で選択する活動を行った。また進路に係る情報の保護者との共有の工夫を広く探り実施した。 ②スポーツや文化的活動の工夫や地域の外部団体等との活動に積極的に取り組み、経験を拡げることができた。	①児童生徒の意思や選択を引き出す取組や手法は引き続き広く模索していく。また、特に小中学部の保護者への情報提供等は今後もより関心を高める方法を探っていけるとよい。 ②オンラインの活用や学習環境の工夫により、活動の幅を拡げていけることが考えられる。	①自己選択は全ての児童生徒にとって重要であり、実態に応じて様々な工夫をして取り組み、また、多様な進路について児童生徒に応じた支援や指導を保護者も含め実施をしていることは評価できる。 ②農園活動など地域の特性を生かし、地域を学びの場とする中で進路の支援を含めた取り組みが行われている。	①児童生徒のニーズに応じて自己選択の機会を意図的に作ることで、自信や意欲に繋げる指導となった。また保護者への進路に関する発信は積極的に取り組めた。 ②地域資源の活用やスポーツ・文化活動を取り入れた学びの充実を図り、余暇活動の選択肢を広げることができた。	①自己選択から更に次の段階として、様々なことにチャレンジする意欲を引き出す指導の充実を図る。また小中高の段階に応じた進路支援の保護者との情報共有は今後も丁寧に行う。 ②今後も引き続きそれぞれの部門課程の状況に応じた内容で、地域資源の活用やスポーツ・文化的活動を通して経験の幅を広げる活動を模索する。

	視点	４年間の目標 （令和６年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価 （２月 27 日実施）	総合評価（３月 13 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	・「児童生徒を地域のフロントへ」の視点から、従前のセンター的機能を礎として、地域の学校、教育行政、地域資源等の連携・協働により、児童生徒が地域の中で暮らす力を育てる。	①近隣小、中学校・地域等との今までの交流及び共同学習の実績を踏まえ、継続的な取組みを模索して推進する。 ②居住地学校への学びの場の移行・復学支援について、より適切なシステムとスケジューリングを確認して整える。	①今までの実践の評価を交流相手と共有して意義を確認し、次年度以降を見据えた連携と指導の計画を行う。 ②制度的に必要な情報を正確に把握して、より適切なシステムとスケジューリングを整理する。	①交流及び共同学習のよりよいあり方を交流相手と協働、連携して検討を行い、継続性のある活動への道筋を確立できたか。 ②移行・復学支援について、必要な情報を確認しながらよりよいシステムとスケジューリングを整えることができたか。	①各部門等で新たな取組も含め、近隣の学校や関連機関と連携した交流および共同学習を実施して、次年度以降の検討も行った。 ②移行支援の流れの整理を関係各部門で行った。Ｃかもめはスムーズな復学に向けてのリーフレットを完成させた。また居住地での学びとして、居住地交流を地域学校と連携して手順に沿って積極的に行った。	①継続性のある活動の基盤をさらに強めるよう取り組む。またオンライン交流も積極的に取り入れる。 ②児童生徒や保護者がより安心して、居住地での学びの移行や復学が行えるよう、ケースに合わせて丁寧な情報共有に取り組む必要がある。	①地域の関係諸機関や自治体と連携して、作品展示や販売、イベント参加等など積極的に地域と一体感のある活動が行われている。小・中学校、大学など様々な校種との交流を実施できたことは良い。 ②復学支援についてもリーフレットの改善などが実施できたことはとても良い。住地交流においては、子どもや保護者の思いに寄り添った積極的な取り組みが行われたと考えられる。	①今までの交流の継続に加え、新たな取組も始まり、それぞれが次年度以降に繋がる可能性のある活動となっている。 ②それぞれの部門で、移行支援の流れの整理やリーフレットの作成などが出来たことは成果であった。ケース毎にはそれぞれの状況を丁寧に把握して対応することは大切である。	①継続性のある活動は年間計画に位置付け、またオンラインも含め新たな取組の拡がりも積極的に模索する。 ②移行支援、復学に向けてのベースとなる考え方はある程度確立されてきている。対応する教員がそれぞれ流れを的確に把握して、関係機関と密に連携していくことは引き続き丁寧に行っていく必要がある。
5	学校管理 学校運営	・安全で安心な教育環境の整備をさらに推進するとともに、緊急時、災害時の対策を整備する。 ・教育活動の充実化のために、より働きやすい職場環境の整備を推進する。	①児童生徒のいのちと人権を守り、安全・安心の中で信頼関係を育む教育環境の整備を行う。 ②関係機関や地域と連携して防災体制について検討する。 ③組織的、機能的な学校運営に向けて、業務の厳選、指導体制の工夫に取り組む。また、従前にとらわれない方法を検討する。	①子どもの視点に立つことを大切にした、人権研修、施設設備の点検、各訓練、事故不祥事防止の研修等を行う。 ②関係機関や地域と連携し、緊急時の体制、対応について検討する機会を持つ。 ③組織の構成に合ったフレキシブルな業務分担と業務の精選を行う。また、Teams や校内ネットワークの機能を活用した業務の効率化を推進する。	①子どもを守る視点を大切にした研修や各訓練を実施して、安全安心な学校生活につなげられたか。 ②関係機関や地域と防災の緊急時の体制、対応について話し合う場を設定し、現状と課題を確認することができたか。 ③職員のフレキシブルな業務分担と業務の精選を行い、Teams や校内ネットワークの活用により組織的な業務の効率化を図ることができたか。	①学校全体で行う訓練や研修は計画通りに実施できた。また各部門等で状況に合わせたシミュレーションなど実施して安全への意識を高めた。 ②学習の場となる各施設との防災対応の確認をすすめることができた。 ③Teams、Forms、マチコミメール、Google フォーム、共有フォルダの利用など様々なツールの活用がすすみ、業務の効率化につなげることができた。	①エラーの起きないマニュアルの整備を進めると共に、実際に起きたケースについて、学校全体での共有と対応の意識向上を確実に行う。 ②地域での防災訓練には天候のため参加できなかったが、地域との協力体制は引き続き模索していく。 ③引き続き業務内容の見直しや見通しを持てる工夫を行っていく。	①②③児童生徒が安心して過ごし、保護者が信頼をして登校させ、教職員が心配なく務められる学校を目指して関係機関とも連携をして取り組んでいることがうかがえた。 様々な職員から見た視点で、災害に対する備えも含め、環境が整えられている。 職員の職場環境についてでは、特に末広校舎では限られたスペースの中で、努力によって機能的なスペースを生み出していると感じた。小学校の余裕教室などで協力できるところは協力し、環境の充実が図られるようにしていくことができればと考える。	①計画的且つ効果的な訓練や研修を企画・実施できた。内容のバリエーションは様々な状況に応じた工夫は考えられる。 ②関係機関との防災時の体制、対応について話し合い、現状と課題を確認することができた。地域との連携は具体的な確認は今後必要である。 ③ツールの活用により業務の効率化の工夫は進んでいる。 教員アンケートでは業務負担を感じている数値が 40%と示されている。	①より様々な状況を想定したシミュレーションや研修を積み重ね、適切な行動をとれるようにする。 ②学校運営協議会委員の地域の方等と、地域での対応について連携できることを確認する。 ③業務改善のアイデアを様々な視点から収集して、出来ることから出来るときに実行して変えていく意識を職員全体で持って取り組みをすすめる。